

竹島問題に関する調査・研究等に
功績のあった功労者に対する感謝状
贈呈者一覧

* 敬称略・五十音順

区分	氏名(年齢)	功 績
資料 提供	おおの ゆきよ 大野 由喜代(86)	<ul style="list-style-type: none"> ・海士町在住 ・戦前、鬱陵島で生活し、当時の日本人居住地の缶詰工場や神社、医院等のことを正確に記憶しておられ、聞き取りにも協力された。 ・当時の生活の様子を写した、写真を数多く保存しておられ、長期の借用を許可され、一部は竹島資料室に寄贈いただいた。 ・今回提供のあった写真や証言は、戦前の鬱陵島における日本人の生活の実態を明らかにする上で、貴重な資料といえる。
証言	きせ いちろう 木瀬 一郎(79)	<ul style="list-style-type: none"> ・隠岐の島町在住 ・竹島に関する調査において、領土編入を願い出た中井養三郎氏をはじめ、竹島漁獵合資会社報告書や新聞記事に出てくる旧西郷町の人物について貴重な証言を得たことにより、明治期から昭和初期の竹島漁業の全体像を把握するためのその後の調査が一層進むことになった。 ・中でも、証言により判明した中井養三郎氏が大正期に旧西郷町港町の^{みおや}水祖神社へ寄贈した玉垣は、当時の氏の資産状況を伺え、数少ない足跡として貴重なものといえる。
資料 提供	まつうら うめはる 松浦 梅春(77)	<ul style="list-style-type: none"> ・隠岐の島町在住 ・松浦氏の祖父が経営していた「松島屋印判店」で制作した印章を押した「印譜」を所持。その中に「竹島漁業組合」の印影3点が含まれている。いずれも、「竹島漁業組合設置許可申請(M39.6.25)」に添付された資料である「竹島漁業組合規約」に記載されているもの。 ・結果的に「竹島漁業組合」の設置は、農商務省の判断で、住所要件を理由として不認可となるものの、法令に基づいた竹島に関する行政権行使の一端を証明する貴重な資料といえる。

* 年齢は2018年2月22日現在